

# ヤマダ会計ニュース

3月号 vol.099

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL : (053) 448-5505 FAX : (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

今年の3月31日、ドコモが提供してきた FOMA と i モードが終了し、KDDI やソフトバンクに続いて日本から 3G サービスが完全に消滅します。かつて一世を風靡した「ガラケー」は、4月1日午前0時をもって、通話もメールもできない「ただの箱」になってしまうのです。平成の記憶が、またひとつ消えていきますね。

## 知っところ! 「税」の マメ知識

### 今月のマメ知識 : 【チップと税金の関係について】

チップは単なるマナーではなく、税務上は立派な所得にあたることをご存知ですか? チップ文化のあるアメリカでは、チップは賃金体系の一部として課税の対象となります。従業員が月に 20 ドル以上受け取る場合は



雇用主への報告義務があり、所得税や社会保障税が厳格に課税される仕組みとなっています。日本においても無関係ではありません。旅館の仲居などが個人として受け取る心付けは、原則として「雑所得」に分類されます。給与所得者であっても、年間の受け取り額が 20 万円を超えれば確定申告が必要となります。ただし、あらかじめ料金に含まれている旅館のサービス料は事業所得として扱われます。一方でチップを渡す側の取り扱いはといえば、業務上のチップは接待交際費や旅費として経費処理が可能ではあるものの、個人への心付けは消費税の課税仕入れには含まれません。国内外問わず、チップは「気持ち」と同時に、税務処理が必要な「金銭」であることを理解しておく必要がありますね。

## 世界の偉人伝

### 今月の偉人 : 【チンギス・ハン】

チンギス・ハンは 13 世紀のモンゴル帝国初代皇帝です。幼名はテムジンで、モンゴル北部の部族長の息子として生まれました。若くして父親を毒殺され、一家は過酷な生活を強いられます。成人後は抗争の絶えない大小さまざまな遊牧民部族を統一し、優れた騎馬軍団を率いて中国から東ヨーロッパまで征服、人類史上最大規模の帝国を築きました。モンゴルで神格化される一方、最強の野蛮人と評価は分かれますが「許す、切る、愛があつて国がある」の精神は、偉大な統治者の証しです。

## 気軽に Let's 英会話

### 今月のキーワード : 【water】

3月22日は人々が水資源の大切さを認識するようにと国連が制定した「世界水の日“World Water Day”」です。日本語でも「ミネラルウォーター」のようにカタカナで発音されることもある「水」、英国では日本語の発音に近い「ウォーター」ですが、米国ではちょっと異なり「ウワーダア」と発音します。“water”は「水」という名詞の他にも動詞として「水をやる」という意味もあります。

“Will you water my plants while I'm gone?” は「留守の間、植物の水やりをしてくれる?」です。



### 今月のトピック：【大人のやる気ペン】

「大人のやる気ペン」がブームです。筆記具に装着する軽量デバイスが書く時間を測定してスマホのアプリに送信すると、学習時間としてグラフに可視化します。時間によって叱咤激励のメッセージが届き、自分のアバターが他のユーザーと交流する楽しみもあります。孤独な時間さえ自己肯定感アップにつなげる未来型サポーターの登場です。



### 才人の言葉

動かない者はつけられ  
鎖にも気づかない

ポーランドに生まれドイツで活動した政治理論家、哲学者であるローザ・ルクセンブルクの言葉。そこから動いてみることで今の自分の状況を知ることができる。

### 振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

#### 今月の商売のヒント：【人間としての厚み】

2026年、生成AIはもはや特別なツールなどではなく、まるで空気のように商売の現場に溶け込んできます。経営の効率化。データに基づいた最適解の提示。これらはAIが得意とする領域であり、経営者が長年磨いてきた「正解を出す力」というスキルの価値は、かつてないほど相対化されています。この時代をどう生き抜いていくか。この問いに対するひとつの答えは、効率の向こう側にある「人間としての厚み」ではないでしょうか。これまで大切にしてきた膝を突き合わせた交流や、



はた目には無駄に思える部下や顧客との雑談、あるいは現場で磨かれた「なんとなく」という直感。これらは単なる非効率ではなく、論理だけでは説明しきれない経営の奥行きそのものです。この計算不可能なプロセスの中にこそ、AIにはマネできない共感や独自の企業文化が宿ります。相手のわずかな表情の変化に気づき、決して数字に表れない現場の温度感を巧みに感じ取る。これは、多くの修羅場をくぐり抜けてきた経営者の「身体知」がなせる業です。目的のない対話、感性を刺激する文化や芸術、あるいは古典を紐解いて思索にふける時間。そうした一見、遠回りに見える時間が組織に独自の彩りを与え、競合にはマネできない唯一無二の価値を生み出します。情報の算出や分析はテクノロジーを賢く使いこなしつつ、その先にある「商売の歩むべき意味」を自分で創り出す。効率の網からこぼれ落ちる豊かな経験の中にこそ、次の時代を切り拓く商売の種が潜んでいるように思います。すべてが数値化・自動化される時代だからこそ、あえて「余白」を大切にしたいものですね。

### トナりの本棚

#### 【1】

直木賞をはじめ数々の受賞歴をもつ道尾秀介の新作。2つの章から構成される物語で読む順番で結末が変わる圧巻の構成力。何度も読みたくなる一冊です。



掃除機でも取りきれないカーペットに絡まった髪の毛やペットの毛は、乾いたゴム手袋をはめて表面を円を描くように撫でると、摩擦による静電気力とゴムの粘着性が毛を絡め取って驚くほどまとめて取れます。専用のクリナーより手軽で強力でお値打ちです。

